

1) - 9 発展途上国を含む SI 住宅の国際理論とその実現方法に関する研究

(研究期間 平成 22～25 年度)

[担当者] 米野史健 <連携研究者>

本研究（研究代表者：小林秀樹／千葉大学教授）は、地球環境問題に対応するため、建物の長寿命化を具体化する技術として注目されている SI（スケルトン・インフィル）住宅について、インドネシア、中国、韓国などの諸外国と日本の国際比較調査を通じて、発展途上国を含めた住宅関連産業の発達段階と SI 分離供給及びインフィル・カスタマイズとの相関を解明し、国際的に汎用性のある SI 住宅の理論の体系化とその実現方策を明らかにすることを目的としている。

本年度は、大連（中国）における区分所有マンションの住戸改修及び建物管理の実態把握を目的として、居住者による住戸内装・設備の改修（リモデル）事例に関する住戸内部の実測調査と新築時図面の収集、住戸改修及び共用施設・建物管理に関する関係者へのインタビュー調査、管理規約等の資料収集を行った。これらの情報と過年度に実施したインドネシア・韓国・ブラジル調査の結果を元に、インフィル・カスタマイズの理論を検討し、最終年度の報告書を取りまとめた。